

日本語の二字漢語とそれに対応する中国語

— 辞書の記述による調査 —

陳 毓敏

1.はじめに

中国語母語話者の日本語学習者にとって、母語にも存在している漢字、漢語は親しみを感じ、助けにもなるような存在であったが、日が立つにつれて段々混乱が起ったり、日本語と母語の漢字を混同するようになってきた。特に作文に漢語の誤りが多い。例えば「汽車、新聞」のような漢語は、中国語の意味では「自動車、ニュース」となるが、学生の作文においてこうした語の誤用が見られる。

しかし、中国語は1つではない。現在日本のNHK中国語講座や一般に教えられている中国語は中国大陸の中国語であり、使用字体は簡体字である。台湾及び香港・東南アジア地域で使用されているのは繁体字である(荒川,1979)。また、武部(1979)によると、中国大陸と台湾の語彙は多少異なるし、日本からの外来語の種類も異なっている。例えば、「愛人」という漢語は中国では「配偶者」という意味であり、台湾では「不倫関係の相手」である。

今まで中国語は中国大陸の中国語とされてきた。日本語と中国語の対照研究も中国大陸の中国語を基準としてきたが、以上のように同じ漢語でも意味がまったく異なっているものが存在している。そこで本研究では、台湾の中国語の二字漢語とそれに対応する日本語の二字漢語の実態を明らかにする。

2.先行研究

日本語の語種は和語、漢語、外来語、混種語という四種類がある。国立国語研究所(1962~1964)の調査によると、雑誌90種の漢語異なり語数は47%を占めている。また、Yokosawa & Umeda(1988)によると、日本語の辞書の約70%は漢字二字で構成されている。日本語を学習するとき漢語は学習しなければならない項目となるだろう。

次に日本語と中国語の漢語の対照研究については、文化庁(1978)、張(1987)などがある。しかし、文化庁(1978)には大きな問題が存在している。荒川(1979)によると、その

本の中で扱う中国語は台湾、香港、東南アジアの「国語」であるが、使用する辞書は中国大陸の『現代中日辞典』と『現代日中辞典』である。両辞書は中国大陸で使われている新しい語彙や意味を反映するものであるので、台湾、香港、東南アジアの「国語」を扱う研究には適切ではないのではないかと。

3. 研究課題

今まで1つそれに対応とされてきた中国語の実態を明らかにするために、日本語の二字漢語とする台湾の中国語、また中国大陸の中国語の辞書的意味を調べることにする。

4. 研究及び調査方法

日本語教育のための基本語彙から二字漢字語彙を抽出し、日本語と中国語の辞書的意味を調べ、分類した。分類の仕方は文化庁(1978)に従い、意味が共通する場合は「Same」に分類する。意味が一部重なっている場合は、「Overlap」に分類する。意味がまったく異なる場合は、「Different」に分類する。また、その語は中国もしくは台湾にない場合は、「Nothing」に分類する。分類の語例は以下の通りである。

例「曖昧」

日本：はっきりしないこと。まぎらわしく、確かでないこと。(『広辞苑』)

台湾：①行為秘密而不正当,有不可告人的事。(訳：あいまいだ。あやしい。不正な関係を持つ。)

②意思隱約不明的樣子。(訳：はっきりしないこと。)(『国語辭海』)

中国：①(态度、用意)含糊;不明白。(訳：はっきりしないこと。)

②(行为)不光明;不可告人。(訳：あいまいだ。あやしい。)(『現代漢語詞典』)

以上のように日台、日中ともに「はっきりしないこと。」という意味が共通するゆえ、分類は「Overlap」となっている。

5. 調査結果

今回の調査は異なり二字漢語 4,600 語を取り出したが、その中の 247 語が確認できないため、調査対象から除外した。総異なり語数は 4,353 語となっている。日台、日中の二字漢語の辞書的意味の調査結果は次のようになる。

表 1. 全体的な割合

	S	O	D	N	合計
日台	54.5%	14.9%	4.1%	26.5%	100%
日中	55.1%	13.3%	3.5%	28.1%	

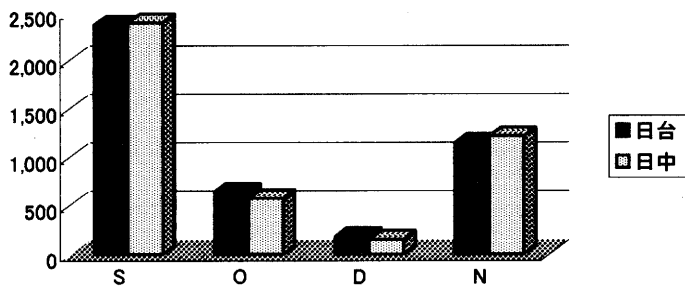


図 1. 語数を表示するグラフ

- 日台、日中の「S」、「D」、「O」、「N」の語数分布の違いは次のようである。

⇒日台、日中の「S」



- 語例: 日台だけ共通する 127 語

日台(Same) { 中(Overlap) 例: 芸術、日課等(53 語)
 中(Different) 例: 時計、生育等(3 語)
 中(Nothing) 例: 風邪、石鹸等(71 語)

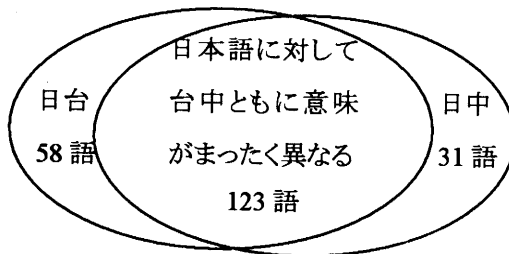
⇒日台、日中の「O」



・語例: 日台だけ意味が一部重なっている 140 語

- 日台(Overlap) {
- 中(Same) 例: 現実、愛情等(99 語)
 - 中(Different) 例: 顔色、脱線等(12 語)
 - 中(Nothing) 例: 終始、別荘等(29 語)

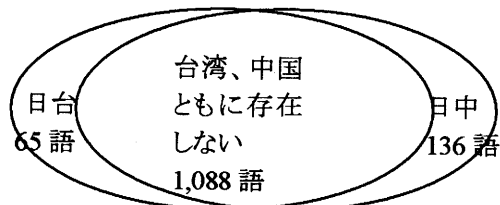
⇒日台、日中の「D」



・語例: 日台で意味がまったく異なる 58 語

- 日台(Different) {
- 中(Same) 例: 悪戯、昼寝等(13 語)
 - 中(Overlap) 例: 心地、喫茶等(9 語)
 - 中(Nothing) 例: 手摺、荷物等(36 語)

⇒日台、日中の「N」



・語例: 台湾に存在しない 65 語

- 日台(Nothing) {
- 中(Same) 例: 区間、下痢等(41 語)
 - 中(Overlap) 例: 脱出、水洗等(9 語)
 - 中(Different) 例: 手柄、浮気等(15 語)

6. 結論

①日台、日中どちらも意味が一致しないものが半数ぐらい占めている。

全体的な割合を見ると、日台、日中ともに「S」が一番多く半数ぐらい占めている。次に多いのは「N」である。「D」が一番少ない。つまり、日台、日中両方ともに二字漢語は半数共通している。しかし、逆に日台、日中の二字漢語の意味はどちらも一致しないものが半数占めている。

②台湾、中国の漢語は必ずしも一致しない。

グラフから日台、日中の漢語は一致していないとわかる。今回調査した4,353語で日中の共通する語（「S」）及び、中国に存在しない語（「N」）は日台より多い。また、意味が一部重なっている語（「O」）及び、まったく異なる語（「D」）は日台より少ない。

そのうえ、各「S」、「O」、「D」、「N」の語数分布及び語例から台湾、中国の漢語は必ずしも一致しないことがわかる。例えば「時計」という漢語は日台で意味が共通するが、中国ではクロノメーターという意味であるので、まったく異なっている。つまり、台湾と中国も異なっていることがわかった。そのような漢語が存在しているゆえ、台湾、中国の漢語は必ずしも一致しないと言えるだろう。

③漢字圏で二字漢語の意味を1つのものとして考えることは難しい。

今回の調査はただ台湾と中国を取り上げて調査を行ったが、例えばシンガポール、香港、なども漢字、漢語を使用している。このような意味の違いも恐らく存在しているだろう。それゆえ同じ漢字圏と言っても二字漢語の意味を1つのものとして考えることは難しいのではないかと思われる。

7. 教育現場への示唆

本研究は教育現場に対して、同じ漢字圏の日本語学習者は同じ漢語を見て同じ意味を考えると限らないということを示唆している。漢字圏の学習者は同じ漢語を見るとき母語知識に影響され、違う意味を考えるかもしれない。

8. 今後の課題

今回の調査は台湾、中国の漢語が一致しないことを明らかにした。今後は実際に日本語学習者における二字漢語の習得において、誤用がどのように現れるのか、また現れ方の違いを実証研究を通して検証していきたい。

そのうえ、本研究では単語レベルの違いにとどまったが、本研究を基礎研究とし、漢語の文レベルの違いも見てみようと思っている。

参考文献

- 荒川清秀(1979) 「中国語と漢語」『愛知大学文学論叢』61号 pp.1-28
- 国立国語研究所(1982) 『日本語教育基本語彙七種比較対照表』 大蔵省印刷局
- _____ (1984) 『日本語教育のための基本語彙』 秀英出版
- _____ (1985) 『語彙の研究と教育』上下 大蔵省印刷局
- 武部良明(1979) 「漢字国民に対する中級漢字教育」 『日本語教育』37号 pp.13-23 日本語教育学会
- 張淑榮(1987) 『中日対比辞典』 ゆまに書房
- 文化庁(1978) 『中国語と対応する漢語』 大蔵省印刷局
- Yosawa,K., & Umeda,M.(1988) Processes in human kanji-word recognition. Proceedings of the 1988 IEEE international conference on systems, man, cybernetics, pp.377-380